

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科2年

氏名: 嘉村侑香

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修先では、ベトナムの文化を体験したり現地の人との触れ合いを軸として、多くの学びを得ることができた。例えば、現地の中学校にお邪魔した時、生徒と一緒に折り紙を折ったのだが、その時折った手裏剣についてどう伝えようと悩んでいたら、中学生がナルト！と言ってくれて、手裏剣について無事伝えることができた。そこから、ベトナムで人気のアニメを通してコミュニケーションを取ることができて、言葉は分からなくとも、共通の話題で盛り上がるができるのだということを学んだ。また、同じく研修に来ていた京都産業大学の学生との交流を通して、その取り組みに刺激を受け、私たちが空き時間に現地の方がよく行くスーパーに行ったりして、ベトナムでの現地の方の生活により近い体験をすることができた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>現地での生活を体験して気づいたことは、神話に出てくる四つの動物と、人々の生活との繋がりである。現地で見せてもらった水上人形劇でモチーフになっていた四つの動物、龍、亀、麒麟、鳳凰は、ベトナムで聖なる動物として信仰されていると、同行していた方から聞いた。それから意識して町を見てみると、建物の天井に龍の彫刻があったり、お邪魔した民家に、鳳凰の木彫りが置いてあったりと、あちこちで四つの動物を見かけた。凄く大事にされているのだなと思っていたら、同行していた方との話の中で麒麟は幸運の象徴で、龍は長寿の象徴といった具合に日本でいう招き猫的な感覚で信仰している面もあると感じた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>この研修を受けて、海外の人とのコミュニケーションが積極的に取れるようになったなど実感している。そのきっかけとなったのが、研修中に学生だけで街を回った時の出来事だ。この時、目的地の場所が分からず右往左往していたのだが、勇気を出して現地の方に道を尋ねたところ、単語のみで文章にできていない言葉でも、意味を汲み取って、道を教えてくれた。また、別の日にベトナムでポピュラーなカフェに行った時、注文の待ち時間に店員さんがニコニコしながら近づいてきて、日本大好き！と日本語で話しかけてくれた。私も嬉しくなって、ベトナム大好き！と返し、コミュニケーションを楽しんだ。拙い言葉でも、伝えよう、分かろうとする気持ちがあれば、それがお互いに伝わって意思疎通が出来るのだということ学んだ。その後日本に帰ってから、バスを待っている時に困っている外国人を見かけた。今までだったら英語が上手くないからと遠巻きに見ているだけだったが、ベトナムでの体験から勇気を出して話しかけることができた。結果、バス乗り場が見当たらず駅員さんも巻き込んでしまったが、この研修を通して言語の壁というハードルが低くなったのを感じた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>私の将来の夢は不登校の生徒に教える先生になることだ。今回のベトナム研修を通してこの夢に少し加えて、在日外国人の方に日本語を教える事もしたいと思うようになった。もともと選択していた教職科目が国語だったこともあり、日本に来て間もない人や、日本語をもっと上達させたいという外国人に日本語を教えることが出来たらなと考えた。現在日本では外国人労働者の数も増えており、街中を歩いていて海外の人を見かけることも普通になりつつある。そんな中で、私がベトナムに行ったときに強く感じたように、もっと現地の言葉で話せたら、という思いの手助けをしたいと思った。その為、今後は日本語教師の勉強に取り組んだり、ボランティアで日本語を教える活動に参加をしようと思っている。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科3年

氏名: 下平沙依

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>初めの4日間はベトナムの市場や中学校、農村や伝統工芸村を訪問することを通して、ベトナムの文化を体験した。本研修では、ハノイを中心に活動したため、都市化が進むハノイとその周辺の農村地区や工芸村の発展の差を感じた。また、中学校を訪問した際にも、折れたペンを使用している生徒もいれば、携帯をもっている生徒もあり、同じ地区で生活しているにもかかわらず、経済格差があることが分かり、その原因について疑問に思った。残りの二日間は、ベトナム京セラ工場やJICA事務局などベトナムで活動を行っている日本人の方々から話を伺った。日本の技術や文化をベトナムの人々に伝えるために、文化や制度の違いに困難を感じながらも、考えを押し付けるのではなく寄り添おうと努力することの大切さを学んだ。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>現地の生活を通して最も印象に残ったことは、ベトナムでは交通ルールを守るという意識が低いことである。日本のように歩行者優先の考えがなかったり、信号無視をする車がいたり、歩道に車が駐車されていたりと日本での常識が通用しないことに驚いた。初めは、日本のような交通ルールがないのではないかと考えたが、自動車学校での試験があり、交通ルールも整備されていることが分かった。しかし、交通ルールを守らない人を逮捕するような場面を一度も見なかったため、罰則が弱く、また交通ルールが国民に浸透していないのではないかと考えた。また、自動車やバイクの普及に伴い、渋滞が頻繁に起こることも分かったが、路駐する車が多く、道路が塞がれることも原因の一つではないかと考えた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修を通して、私は自ら考えて行動できるようになったと考える。私は今回の研修が初めての海外経験であったため、主体的に行動することを目標とする反面、不安な気持ちが大きかった。変化が起きるきっかけとなった出来事は、ベトナムのホテルに着いたときに、予約した部屋とホテル側から手配された部屋が異なっていたことである。ホテル側の間違いに気づいたとき、私はすぐに先生に相談したが、先生は自分たちでトラブルに対応するよう促してくれた。簡単な英語やジェスチャーで自分の考えを伝え、無事に部屋を変えることができたことが自信に繋がった。その後、カフェや買い物でベトナム語が読めないためにどのような商品か分からない際に、英語で質問をするなどして現地の人と積極的にコミュニケーションをとることができた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>私は技能実習制度に関心があり、所属しているゼミでは技能実習生に関する文献を読んでいる。本研修の中で、ベトナムの技能実習生送り出し機関でボランティア活動を行っている本学4年生の田中さんに貴重な話を聞くことができた。その中で、ベトナムの技能実習生は日本で技能を学び、帰国後の活動に活かすというよりも、家族のためにお金を稼ぐことを目的としている人が多いことが分かった。受け入れ側である日本は、技能実習制度を技術移転のためであると定義づけているが、低賃金や長時間労働が問題として指摘されている。このように、目的と実態が乖離していることから、政府は技能実習制度の見直しを検討することを公表しているため、今後、制度のどのような点がどのように改正されるべきかについて考えていきたいと思う。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部 人文学科
多元地域文化コース 3年

氏名: 中村 美吹

授業科目名	進取の精神海外研修 inベトナム
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修先のベトナムでは、ハノイの市街地や観光地、農村などさまざまなところを訪れ、ベトナムの文化や自然、生活様式などを知り、学ぶことができた。また、京セラベトナムやJICA事務所を訪問することにより、日本とベトナムの関わりや交流について現状を知ることができた。私は今回が初の海外渡航で多少不安もあったが、この研修により異文化への関心がさらに高まったとともに、さらに洞察力を身に付けることができ実りある経験になったと思う。異文化を肌で感じることで、道路事情や食、文化などの細かい部分に注目し、日本との相違点や課題、疑問を考察したり、現地の方に質問することで理解を深めたりできるようになった。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>最も印象的であったのは、交通事情であった。日本と比べて圧倒的にバイクの数が多く、クラクションが多用される、信号機を守らない人が多いなどの他にも、携帯電話の使用やバイクの乗車人数など細かい交通ルールも大きく異なっているようだった。車、バイクの運転免許取得のために日本と同じように筆記試験や運転練習が行われることや、ベトナム人はせっちな人が多くその気質が運転にも表れていることなどがわかった。また、ベトナム人はとても勤勉で、働くときと余暇を楽しむときはしっかりと区切りがつけられていると聞き、確かに平日でも夜は屋台や露店が賑わっていた印象があった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私は、自分の英語に自信がなく、研修前は発表や意見を求められても積極的に英語を話そうとすることはなかった。しかし、日本語が通じない慣れない土地で過ごすことで、道やお店の場所などを尋ねなければならない場面もあり、それを繰り返すことで日本語以外でのコミュニケーションが楽しいと思えるようになった。実際には自分の英語がつかないことに加え、現地の方でも英語を話せない人が多かったり、発音が聞き取りにくかったりと会話で苦戦することが多かった。しかし、身振り手振りで単語をつなげるだけでもコミュニケーションがとれることもあり、外国人と話す機会がほとんどなかった私にとってとても刺激的な経験になった。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>ベトナムの幼稚園を訪問した際や、JICA事務所を訪れた際に、私は将来さまざまな国と関わる仕事がしたいと強く思うようになった。特に、幼稚園で青年海外協力隊として幼児教育を支援されている方が、教育方針の違いや現地職員とのコミュニケーションの難しさや方向のずれなど、苦勞されているが、同時にとてもやりがいを感じているとも話されていたのが印象的だった。また、実際にベトナムを訪れてみて、地域を問わず貧富の差があるような印象を受けた。今までは、海外と関わる仕事をしたいとだけ思っていたが、貧困や教育などさまざまな面で支援を必要としている人の手助けに関われる職に就きたいと考えるようになった。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部・2年

氏名: 前蘭真鈴

授業科目名	進取の精神海外研修 inベトナム
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>学習内容の中で特に印象的だったのは、青年海外協力隊の幼児施設での活動の見学である。なぜなら、協力隊の方とお話を通して、一人で活動するのではなく、現地の人々と一緒に取り組むことが国際協力では重要であると学んだからである。協力隊の方が幼稚園に来た頃、自分の取り組みを理解してもらえず、一人で計画を立てて準備をしていたとおっしゃっていた。しかし、現地の先生との会話を通して活動の意義を伝え、互いに協力して取り組むことを大切に続けたことで、先生が協力してくれるようになったことを聞いた。見学では、紙飛行機を折り紙で作るという活動をしていたが、協力隊の方と現地の先生と一緒に園児に教えていた。国際協力は、一方的な支援ではなく現地の人々と協働することであると学んだ。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>ベトナムは、豊かな自然、伝統工芸品が存在する国であると学んだ。特に印象に残っているのは、フーシェン市で見た伝統工芸品である。手作業で木を彫り、貝殻を彫った形に合わせてはめるという細かい作業を行っていた。完成品は美しく、見る人を圧倒する工芸品であった。しかし、現地のホア先生が伝統工芸品の需要が減っているとおっしゃっていた。伝統工芸品は町にとって重要な産業であり、今後も継承することが必要であると考えた。</p> <p>さらに、自分がインターネットなどの2次情報に影響されていたことに気づいた。渡航前に抱いていたイメージとは異なり、ハノイは屋台に人々が集まり、賑やかな街であった。固定観念で国を見るのではなく、実際に自分の目で見て物事を考えることが重要であると考えた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修前の私は、初対面の人と話すことにあまり得意ではなかった。しかし、現地の中学校への訪問を通して、言語や文化の異なる人々と積極的に交流することができるようになった。中学校では、紙風船の折り方を生徒たちに教えた。最初は、現地の生徒たちは知らない外国人に少し緊張した様子で、私も同様に緊張していた。けれども、「ここはこう」と折り方を実演して丁寧に説明した。また、折り方のわからない生徒には、近くに行って教えた。そうすると、生徒たちは紙風船を折ることができて、楽しんでいった。言葉が通じないからといって、意思疎通を諦めるのではなく、どうしたら伝わるかということを考え、自分から話すことの重要性を学んだ。また、思いを伝えようとする強い気持ちを持つことの大切さにも気づいた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>私は今後の大学生活の中で、日本に住む外国人の暮らしやすい生活のために何ができるのかを考え、研究したいと考えている。ベトナムで留学をしながら技能実習生の送り出し機関にボランティアとして活動している田中さんのお話の中で、日本に来た外国人労働者はベトナムの技能実習生の送り出し機関との連携を上手く図ることができていないことがあるとおっしゃっていた。さらに、外国人労働者は日本で働きながら日本語を学ばなければならない環境にあるということも聞いた。鹿児島は、日本語の学習を支援する場所が少なかったり、そもそも外国人労働者がそのような場所を知らなかったりするところがあることを学んだ。そのため、外国人労働者や外国から来た人々をサポートする活動に関わっていきたいと考えた。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 工学部 2年

氏名: 前田寛悟

授業科目名	進取の精神海外研修INベトナム
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>ベトナム北部の都市ハノイを中心に約1週間様々な場所を見学し、ベトナムの文化や歴史、教育や産業などについて学習した。具体的には焼き物村見学、水上人形劇、中学校訪問、農村見学、ニンビン遺跡、京セラ工場見学、JICA訪問だ。ほかにも実際に市内を散策したりベトナムの食文化も体験し、いままであまり発展していない国だという認識だったが、今回の研修で、ドイモイという経済活性化の政策によりつい最近までベトナム戦争が勃発していた国だとは思えないほど凄まじい勢いで経済成長を続けるとも発展している国だということが分かった。アジアの新興国が実際にどのようなものなのか肌で体験し知ることができたのが最も大きな学習成果だ。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>現地で生活してみても思ったのがベトナムは活気に溢れているということだ。勢いよく経済成長をしていることが生活にも表れているのだろうと感じた。道にはとてつもない数のバイクが走り、シャネルやルイヴィトンなどのブランドメーカーの店や綺麗なカフェ、ベトナム料理の店が多く立ち並び大きなビルやデパートが多く見られた。ただ訪問した農村や伝統工芸の村は都市部の発展からは取り残されているように見えたので日本と同じような都市部と農村の格差問題はあるのだと感じた。また街中でよく見かける日本製のバイク、車、化粧品や工業団地が多くの日系企業の工場で占められていることから日本とも非常に関わりの深い国であることがわかった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回、九州電力からベトナムに来てベトナムに水力発電を広めようとしている方のお話を聴く機会があった。またJICAから派遣されてベトナムの幼稚園で先生をしている日本人の方や京セラで働く日本人の社員さんたちのお話も聴くことができた。私はお話を聴く中でこの方々の自身のスキルや経験を生かしてベトナムという国をよくするために文化や言葉の壁に苦勞しながらも働く姿に感銘を受けた。今回の研修があるまでは将来自分がなにをするのか漠然と考えただけだったが今回の研修を終えて私の専攻である化学を生かしてこの方々のように外国の発展のために働く人間になりたいと考えようになった。これが研修を通じての自身の変化だ。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回のベトナム研修でベトナムの著しい発展を見た一方、先程述べたように地方と都市部での格差やバイクの排気ガス、インフラが整備されたり工場が建設されることによる環境問題など課題もまだ多くあることを学んだ。発展しようとするれば必ずそれに伴う弊害が生まれてしまうということだ。これはベトナムに限ったことではないと思う。鹿児島もベトナムほどではないが駅前や地方が発展してきているのは事実である。この発展と共に環境問題や格差問題が生まれないようにする必要がある。なので将来的には自分の化学専攻のスキルを生かして鹿児島に環境問題が起きないように過設備や環境を作っていくたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部・2年

氏名: 渡邊望未

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>授業で鹿児島はベトナム人の技能実習生が多いということを知り、ベトナムに興味を持ち、今回この研修に参加した。ベトナムではハノイ市内、バッチャン村を初めとした伝統工芸品、ニンビン市のTrang Anという世界遺産、京セラベトナム、青年海外協力隊の見学、中学生との交流や社会科学院やJICA事務所への訪問をした。私が印象に残っているのは、ベトナムで働く大人や留学をしている先輩、日本語を学ぶベトナム人との出会いだ。彼らと話げできたことで自分の将来について改めて考えることができたり、自分も語学の勉強を頑張ろうという気持ちになれたりしたからだ。今後もこの気持ちを忘れず、勉強に加えて様々なことに挑戦し経験をしたいこう考えた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>8月中旬、大崎町のゴミの分別について学ぶ機会があり、それらの素晴らしさに加え、大崎町はリサイクルの技術をインドネシアに伝えているということを知った。このことから、同じ東南アジアのベトナムのゴミ事情はどうなっているのか気になっていた。街でゴミを回収しているところを見かけたが、屋台やホアンキエム湖周辺では、ポイ捨てされたごみが目立っていた。JICA職員の方によると、ベトナムではゴミの分別は行なわれておらず、道ばたでゴミを焼く地域もあるそうだ。これらが原因で大気汚染の環境問題に発展していることを学んだ。環境問題は世界全体で取り組むべき課題であるため、都市開発だけでなく環境にも目を向けるべきだと考えた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>私はこの研修に参加して、ベトナムに対する印象が大きく変わった。行く前までは、ベトナムは社会主義国であるから自由が制限されている、貧しいという印象を持っていた。しかし、ちょうど行ったとき独立記念日の祝日であったため、街中はお祭りのようであった。どの観光地に行っても人が多く、にぎわっていた。買い物をしたときもお店の人が日本語で話してくれたり、「また来てね」と行ってくれたりととてもフレンドリーだった。自分が行く前に抱いていたベトナムの印象と大きく違ったため驚いたと同時に、自分の目で確かめることやSNSやメディアの情報を鵜呑みにしてはいけないなど改めて感じた。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>私は将来、日本や鹿児島に来る外国人の受け入れに携わりたいと考えている。現在東南アジアから日本へ来る人が多いため、今後さらに東南アジアへの理解や知識を深めていきたい。そのために積極的にイベントに参加したり、留学生と交流したりしていきたい。また、私は東南アジアへの留学も希望している。高校生のときに行ったカンボジア、今回新たなつながりができたベトナム、留学先でより多くの東南アジアの人々とつながりを持ちたい。日本と東南アジアは今後、強い関係で結ばれていくと考えるので、今までに得たつながりをもとに自分が日本と東南アジアの架け橋になることに活かしたいと考える。</p>	